

全日本おかあさんコーラス 埼玉県大会全国に先駆け開催

第46回全日本おかあさんコーラス埼玉県大会が、和光市民文化センターで3月4-5日行われ、45団体が参加しました。コロナ禍前に比べると20団体ほど減っています。

まだ感染対策は解除されていないので、不織布マスク着用(フェース・マウスシールドのみは不可)と、50人という人数制限が課されました。ステージの立ち位置の間隔は以前ほどではありませんが、番号札が貼られたところに立つ必要があります。

おかあさんコーラスは1978年に始まった歴史ある大会です。全日本合唱連盟の各支部代表が8月姫路で行われる全国大会で歌声を披露します。

埼玉では、関東支部大会(千葉)への出演団体を選考および抽選により選出しています。今回は、審査員による選考が6団体、抽選が7団体、合せて13団体(下記)が関東支部大会への推薦を受けました。

コーラル・デイズ/ mellowコール/ アンサンブルファンタジア/ 浦和女声合唱団/ 女声合唱団悠^{はるか}/ コーラル・ソシア/ 女声合唱団「曙」/ レ・コンソグラ/ 春日部女声コーラス清秀/ 女声合唱団水脈/ コール・ドルチェ/ Cache-Cache/ ドマーニ

招待演奏 彩の国プラチナ混声合唱団

彩の国プラチナ混声合唱団は、大会2日目の3月5日ゲストとして出演し2曲を演奏しました。いずれも「^{いろは}彩のうたⅡ」(埼玉県合唱連盟愛唱曲集)に収録されている曲です。

1. 混声合唱とピアノのための「新しい歌」より きみ歌えよ
谷川俊太郎作詩/ 信長貴富作曲
2. 火の山の子守歌 (混声/ア・カペラ)
谷川 雁作詞/ 新美徳英作曲

2チームに分けて演奏

プラチナ混声は100人参加しているため、人数制限で、女声をABの2チームに分け、男声は少ないのでABどちらでも歌う形とし、1部の最後(チームA)と2部の最後(チームB)の2回に

分けて演奏しました。今回プラチナ混声に参加した『おんがく広場』編集委員の感想をつぎにご紹介します。

◆プラチナ混声の男声はパートバランスの関係で2度ステージに立ちましたが、それぞれ違った味わいがある演奏でよかったと

思います。和光市民文化センターの響きはとてもよいので助かります。個人的には、昨年もそうでしたが、どういわけか同じように2回は歌えません。それとプラチナ混声は埼玉県合唱連盟に所属していなくても個人参加できますし、参加すると新たな知り合いができるのが魅力です。(E)

◆新型コロナウイルスに対する行動規制の緩和もあって、今回も100名を超える団員が集まりましたが、男声は昨年より少なく、少し寂しい状況でした。ただ、男声は2回のステージを経験できたので良かったと思います。練習回数が少ないので、1回1回の練習に濃密な時間が流れ、

歌うたびに上達していくのがわかります。4月の横浜でのステージに向けてさらに精進し、横浜ではできれば暗譜で歌いたいと思います。(S) ◆残りの3回の練習で、「火の山の子守歌」についてもう少し突っ込んだ練習がしたいです。どのような心持ちで歌うかも突き詰めたいです。(M) ◆今回少し無理したかなと思いつつの参加でしたが、いろいろな気づきもあり、参加して良かったです。練習後の反省会(?)も含めて楽しい経験となりました。(N) ◆毎回のことですが、合唱団でまとまって参加している人もいれば、個人参加の人もおり、イベント合唱団の特徴的な構成となっていました。それを限られた練習回数でまとめ上げねばならず、指揮者小野瀬照夫理事長も苦労されたと思います。ソプラノ:41、アルト:44、テナー:8、バス:7、計100人という構成のなか、圧倒的に少ない男声ですが、なんとか存在感を示して良い演奏に繋がりたいと願っています。(K)

プラチナ混声 目指すは国際シニア合唱祭 ゴールテンウェブin横浜

プラチナ混声は4月17-19日に行われる国際シニア合唱祭への参加を目標にしています。嬉しいことに会場の横浜みなとみらいホール・大ホールでは全員がオンステージできます。出演は1日目の17日です。残りあと3回の練習でより高みを目指します。

